

●事務所 1 階の整理整頓かなり進みました。

地域の人々が狭くて危険な道路の拡張のために、事務所の移転の協力要請でプレハブ小屋に移った時に運び込んだ備品がそのままでした。見かねて桜谷先生が整理整頓を申し出て下さり 2 日かかりで頑張っておりました。先生には大変世話になりました。

●里山農園・フジバカマが満開



里山農園の物置の横の畝に 2 年前から植えてあるフジバカマ、これは絶滅寸前種（藤袴の原種）で京都市西京区大原野の藤井肇さんから譲り受け、挿し芽で増やして今年で 3 年目になります。原種のフジバカマは薄紫色の花をしており、葉の形や

背の高さも園芸種とは異なり葉や茎から広がるハーブのような爽やかな香りが特徴です。この香りに誘われて昨年もアサギマダラが飛来してきました。涼しいところが好きなアサギマダラは今年も来てくれるでしょうか？ 10 月中旬には飛翔して来るのではと期待をしています。ただ連作障害があるため、この畑で 3 年目になり少し連作障害が起きており苦慮をしております。（ここまで金田徹文責）。アサギマダラは海を越えて 2,000 km を飛ぶ蝶ともいわれている人気の蝶です。



2023 年 10 月 6 日撮影

●秋の植物観察会 10 月 5 日 集合は京田辺市立普賢寺小学校前（10:00）参加者受け付けています

まだ余裕がありますので申し込んでください。当日飛び込み参加も認めています。時間になると集合場所から移動しますので時間厳守をお願いします。講師=光田重幸先生（光田重幸 京都植物同好会代表 京都府レッドデータ選定委員）にガイドと解説をお願いしています。またお世話係として伊藤千恵子さん（里山の会・植物部長）が担当されますのでご意見をお寄せください。

●第 2 回目の魚釣り大会が目前に迫ってきました。

今年は子供達による本格的な釣り大会としての第一歩とするために、使う道具「釣竿一式」を統一した同じもので行うことにして 40 本を用意できました。

どのような獲物がかかってくるか楽しみです。会場の周囲の草刈りも 2 日に実施することができました。参加される皆さんにおかれましてはワンド周囲での行動をできる限り静かに歩き魚を驚かさないようにお願いいたします。去年はガヤガヤ・ワイワイとの行動だったので相当厳しい結果でした。今年はこの点を守り合ってください。この取り組みの狙いは「木津川で国の天然記念物とされているイタセンパラの復元」のための外来魚（ブルーギルやブラックバスなどの肉食魚）を撲滅させることを最大の狙いとしています。木津川は 2007 年までこのワンドで人工的な手が全く届かない中で、生息が出来る環境が維持されていたのです。私達やましろ里山の会はこの 10 年、天然記念物の復元を目指してきました。小さな力しかありませんが細々と粘り強く活動を続けています。何かしらのご協力をお願いいたします。また良い提案がありましたらご連絡をお願いいたします。



●いきものフェスで活動紹介する太田敏之さん（ヤマトサンショウウオの取組）と、福井波恵さん（木津川のお話と魚とり）の原稿チェックを桜谷先生にお願いし、改正点を助言していただきました。

おかげさまで視聴者から素晴らしい内容で分かりやすかったとの高い評価をいただきました。サンショウウオについてはこれを土台にして30周年記念誌に役立つことと思います。また魚とりと木津川のお話は里山の会が多くの子どもたちに川の面白さを伝えてきた取り組みを振り返る事が出来ました。発表者のお二人ともご多忙の中ご奮闘されたことに感謝いたします。ご苦勞様でした。



●第2回目のきょうといきものフェスでは、スタンプラリーの3番に設置されたので来館者が多く訪れることになりました。

スタンプを押し終わったところに案内の声を掛けると、多くの方が里山の TENT を



ご覧になってくださいました。そして興味があるとワークショップに参加されて松かさツリーや竹鉛筆づくりに参加されました。スタッフの皆さんは昼食を食べる間もないほどの賑わいになりました。松かさツリーは周りの枯れ枝の利用ですし、松ぼっくりは同志社大学の松林で拾ったものです。まさに自然のものを活用して楽しんでいただきました。また竹ペン鉛



筆は繁殖が旺盛な真竹を取材にしたもので①プラスチックサインペンとして使用していただきたいとか、②使い捨てプラスチックごみ対策になるなどと製作目的や役割をお話すると多くの方が納得されて、協力をいただくことができました。そしてこうした取り組みをしている里山の会を伝えていただくこと、広げていただくことをお願いしました。ホームページや週刊ニュースも忘れず案内しました。竹蛇籠製作講習会では遠くから興味ありそうな顔をして眺めている人がかなりありました。なかなか勇気を出して参加していただくところまで手も足も出しにくかったのでしょうか。しかし出来上がった蛇籠が並び始めると予想もしていない遊具にして蛇籠の中に入り始めた子供たちもいました。機械で作ったものではなく、自然にある素材だったので入ってみよう、町の公園にある遊具では味わえない手触りや感触が良かったのではないのでしょうか。こうした自然素材を人力で用意した遊具は手の感覚に記憶として残るのではないかと思います。良い経験の場を提供できたと思えました。そして安全な遊具づくりの必要性を考えさせてもらいました。



●10月の竹ペン製作予定日は2日と8日（火）、23日（水）を予定しています。

これは地元の竹・すなわち京田辺市から奈良の東大寺二月堂のお水取りに送っている真竹を使って作っているものです。また鉛筆の芯入れは障がい者施設の皆さんに仕上げのお手伝いをお願いしています。近頃大量に使用されているプラスチック製品が捨てられ、海ゴミとされるとき自然素材使用のきっかけとなればと製作しています。竹の進出が農家を悩ましその利用法の一助になればと気付きました。ささやかな製作目的ではありますが、環境や福祉や農業に役割を果たせればと期待しています。主旨のご理解を賜り誰でも参加できる小さな歩みにご参加して下されば大変うれしいです。「自然を大切にする仲間の輪を大きくする」とのスローガンで活躍を進めて28年のやましろ里山の会からの呼びかけです。